

明日へ 産業創生

100年後も使える橋を

劣化に焦点当てて研究



丈夫で長持ちする橋の実現のために研究を進める岩城教授

郡山市の日大工学部のキャンパスを歩く。実験棟の隣に巨大な建造物が現れた。土木工学科コンクリート工学研究室が製作した試験用の実物大の道路橋。丈夫で長持ちする橋の開発のため実証実験を繰り返している。

高度成長期に建設された道路などの老朽化が問題となる中、日大工学部は二〇一四(平成二六)年、百年後も使える橋を目指す「ロハスの橋プロジェクト」をスタートさせた。東京大、民間企業と連携している。積雪に伴う凍結防止剤の塩害や凍害などによる鉄筋コンクリート製の床版の劣化に焦点を当て、既存の橋の寿命を延ばす、新たに造る橋の高耐久化の策を検討している。

「これがひび(劣化)なんです」。コンクリート工学研究室の岩城一郎教授が再現した橋の床版を指さした。最も傷みやすい部分という。プロジェクトの第一弾ではコンクリートの材料や水、セメントの割合を変えた六種類の床版を製作し、さまざまな条件下で耐久性を調査した。現在進めている第二弾は、わざと劣化しやすい条件にした床版を調査対象に加え、劣化メカニズムの解明や修繕方法の確立に向けて研究している。これまでの研究成果は東日本大震災で被災した三陸地方の復興支援道路に活用された。県内の道路橋にも用いられる予定だ。

彼らのプロジェクトは言うならば「橋のドクター」。現状を調べ、問題の原因を探り、必要対策を提言する。劣化の予防策も推進する。岩城教授は「高速道路や国道などの大きな道路はもちろん、県道や市町村道も予防保全の観点で対応しなければならぬ。事故を未然に防ぐため、日大工学部の技術を全国に展開していく」と意欲を示した。(郡山本社報道部・三浦 美紀)

日大工学部土木工学科 コンクリート工学研究室

経済人 トップインタビュー

「原木の買い付けから組み立てまで一貫体制を築いています。一九〇〇(明治三三)年の創業から仏壇やしい面もあります。」

マイスター (会津若松市)

保志 康德 社長

「尊い仕事はない」と語っていました。一方で、時代に合わせて常に革新していかなければならないと強く感じます。次の世代が、やってみないと思える職人像を示していきたいですね。」

「使う側の要望にどう応えていますか。」



気軽に出入りできるアルテマイスターのギャラリー(会津若松市)

▶本社所在地—会津若松市門田町一丁目村東40 ▶事業内容—仏壇・仏具製造販売 ▶資本金—6080万円 ▶従業員—創業—1900(明治33)年 ▶連2(27)4380

チョコ、キャラメル、3種類。イチゴやブルーベリー、カボチャ。一番人気はチーズ味

舗とインターネットのホーム購入できる。8個、12個、16個、箱もあり、贈り物用などに使うという。



井裕りとしに自地域で意識。



笑顔で宿泊客を迎える坂内

ルポ

挑戦の現場

エゴマで6次化商品



遊休農地の

只見農産加工企業(只組合「げんき村」)